

当院では以下の研究を実施しております。

この研究は、通常の診療で得られた過去の記録を使って行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

膀胱痛症候群患者における漢方（当帰芍薬散）の症状改善に関する後方視的観察研究

1. 研究の対象

2019 年 4 月～2026 年 9 月までに当院で当帰芍薬散を処方した BPS 患者

2. 研究目的・方法

膀胱痛症候群（Bladder pain Syndrome : BPS）は慢性的な骨盤部痛・排尿関連痛を呈し、鎮痛剤などの標準治療の効果が限定的であることが多く、治療選択肢の拡充は臨床上の重要課題です。

本研究の目的は、BPS に対する当帰芍薬散の有効性および安全性を後方視的に検証することです。診療録から下記の情報を収集させていただき、当帰芍薬散を処方した BPS 患者における膀胱痛の改善割合、症状変化の特徴、副作用発現の有無を明らかにし、漢方治療が BPS の治療選択肢として臨床的に有用であるかを評価します。

この研究は、2027 年 4 月 18 日までを予定しております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、年齢、処方から効果を確認した期間、病状の状況、副作用等の発生状況、他の漢方との併用の有無 等

本研究で取得された情報は、現時点では特定の将来研究への利用は予定していません。ただし、BPS に対する漢方治療の有効性に関する学術的知見の蓄積を目的として、将来的に関連領域の研究（前向き研究、追加症例の解析など）に活用される可能性があります。その場合には、新たに臨床研究倫理審査委員会の承認を得た上で適切に実施いたします。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：青木九里

所属：東京品川病院 泌尿器科

住所：東京都品川区東大井 6-3-22

電話：03-3764-0511（代）

（2026 年 09 月 09 日作成）